

(三) 林野状態 流域内ハ概シテ山林原野ニシテ殆ト民有ニ屬スル針葉混濶林タリ。上流部ニ在リテハ針葉樹多クレトモ伐採サレ林況不良ナリ中流部以下ハ松檜椎等多ク比較的良好ノ林況ヲナセリ是等ハ皆自然林ニシテ樹齡幼若ノモノタリ

耕地ハ水田ト畑地ト相半シ上流部沿岸ニ相當開ケタレトモ其ノ大部分ハ下流部ノ平地ニアリ

(四) 氣象 本流域ニ於テ氣象ニ關スル觀測ヲセルモノナケレトモ附近ヨリ推ストキハ年平均氣溫ハ一四度乃至一六度ナルヘク年降水量二、〇〇〇耗乃至二、五〇〇耗降雨日數ハ一〇〇乃至一三〇日位ナルヘシ

二、河川ノ狀況 山間ヲ流下スレト中流部ノ二、三箇所ヲ除キテハ河畔ニ僅少ノ平地アリ、河幅ハ北郷村入下附近ヨリ上流ハ一〇間許以下ハ一五間乃至二〇間ナリ。門川村松瀬附近ヨリ上流ハ河岸河床岩盤ヨリ成ル所ト砂礫ヨリ成ル所ト相半シ下流部ハ全ク砂礫ヨリ成リ河川斷面一般ニ整一ナリ河川ノ勾配ハ一般ニ緩ナリ只北郷村椿原ヨリ門川村松瀬ノ間ニハ河床河岸岩盤ヨリ成リ兩岸迫リ勾配急ナル所アリ

流量ハ實測ノ結果ナケレト豐富ニハ非サルカ如シ

三、水利及治水 本河川ニ於テハ下流部ニ少許堤防アル

外治水事業ト稱スヘキモノナシ。水利事業中著シキハ用水ニシテ上流北郷村宇納間附近ヨリ取入ルルモノ多數アリテ三〇〇町步餘ヲ灌漑シ又下流門川村大字川内以下ニ取入ルルモノ多數アリテ約一七〇町步ヲ灌漑セリ。流材ハ木材ノ管流竝木材竹等ノ筏流アリ漁業モ鰻鮎等年産額四、〇〇〇圓餘アリ

本河川ハ流域狹ク流量少ク勾配緩ニ且用水其ノ他モ比較的多ケレハ之ヲ水力ニ利用セントスルモ元ヨリ大ナルモノナク小ナルモノハ取り得ヘキモ有利ナルモノナシ

四、水力地點 既設竝許可地點ナク選定地點ナシ

## 第十五章 耳川水系

### 一、流域

(一) 地形 耳川水系ノ流域ハ宮崎縣ノ中部ニ位シ東曰杵西曰杵兩郡ノ南部ヲ占メ又河口附近徹ニ兒湯郡ニ跨リ形狀稍亂ニ類シ東西ニ長ク東西一五里南北六里ニ亘リ面積五八方里アリ

本流域ハ九州山系ノ支脈日向山脈ノ蜿蜒スル所ニ當レ

ルヲ以テ最上流部ヨリ河口ニ到ル迄山岳連亘シ平地ハ寸地モアルコトナシ而シテ多數ノ山岳錯雜スレト内ニ二條ノ主ナル脈ヲ認メ得ヘク此ノ脈ノ東西自ラ山容ヲ異ニス其ノ山脈ノ一ナルモノハ流域ノ西端宮崎熊本兩縣界ヲ南走セル者ニシテ高サ五〇〇尺乃至六〇〇尺ノ向坂山三方岳高嶽國見嶽鳥帽子嶽銚子笠等ヲ經江代山ニ至レルモノ一ナルモノハ流域ノ北部ニ聳ユル諸塚山ヨリ耳川ノ支流七ツ山川柳原川ノ間ヲ南走シ本流ノ南岸ニ出テ西折シテ清水岳中山峠右仁田山ヲ經テ江代山ニ至レルモノニシテ小丸川水系トノ流域ヲ分チ主ナル山ハ何レモ高サ四〇〇尺乃至五〇〇尺アリ此二脈ニ圍マレタル部分ハ諸塚椎葉ノ僻村ニ屬シ黒嶽石堂屋霧立越ヲ始メトシ高サ四〇〇尺乃至六〇〇尺ノ山岳至ル所ニ聳ユル其ノ山腹ハ急斜面トナリテ相交リ溪谷ヲ作り地形甚タ峻峻ナリ諸塚山ヨリ清水岳ニ向ヘル山脈ノ東ニ山岳ノ高峻ナルモノヲ見ス。東曰杵郡東郷西郷兩村ノ境界ニ連亘セル神山等ノ一脈及尾鈴山ノ北東ニ延ヒシ西林山熊山等ハ最高キモノニシテ高サ二〇〇尺乃至三〇〇尺ノ間ニアリ西郷村田代附近及東郷村山陰附近以東ニハ山岳ノ見ルヘキモノナク低山丘陵多數竝立シ地形ノ變化多シ。本流域

ニハ河岸ニアリテモ平地ト稱スヘキモノ殆トナシ。流域内ニハ沼湖ナシ

(二)地質 本流域ノ大部分ハ砂岩粘板岩ヨリ成レリ而シテ西臼杵郡内ノモノハ古生層ニ屬シ東臼杵郡内ノモノハ中生層ニ屬セリ。其ノ他東臼杵郡西郷村田代ノ東ナル權現山附近ハ玢岩ヨリ成リ又七ツ山川ノ上流部ノ河岸一帯及西郷村田代及和田附近ノ丘陵起伏スル所ハ熔岩其ノ他ノ火山噴出物ヨリ成リ東郷村山陰附近ヨリ以東ハ尾鈴山附近ヨリ展延セル石英斑岩ヨリ成レリ

(三)林野狀態 本流域ハ上下流ヲ通シ林野狀態大體相似タリ。即チ人煙稀薄ナレハ耕地極メテ少ク田ハ所々河畔ニ點在シ全面積一、二〇〇町歩ニ過キス而モ其ノ過半ハ下流部ニ在リ。畑ハ流域ノ各所河畔又ハ山腹等人家點在スル所ニ少許宛散在シ熟畑ハ二〇〇町歩ニ足ラス尙是ニ燒畑切替畑等ヲ加フルモ全面積ノ一割内外ニ過キス。其ノ他ノ部分ハ凡テ民有ニ屬スル山林ニシテ潤葉樹林其ノ半ヲ占メ針潤混淆林之ニ亞キ樹種ハ松杉檜梅樺等多ク針葉樹林ハ杉ノ植林等ニアレトモ比較的少ク竹材無立木地モ所々ニ在リ。是等ノ森林ハ從來狀況良好ナリシモ七八年來伐材頓ニ起リ製材所入り來リ良材ハ多ク之ヲ伐リ

出シ而モ植林之ニ伴ハサレハ森林狀態概シテ不良ニシテ野草繁茂シ櫻櫛栗等ノ幼樹點綴疎生セルカ如キ所各所ニ在リ殊ニ中流以上ニ多シ。近時住友總本店ニ於テ椎葉村内一〇、〇〇〇町歩ニ亘リ杉及松ノ植林ヲナス計畫アリ漸次進行中ニ屬ス

(四)氣象 氣温ハ上流部低ク年平均氣温一三度許下流部ニ至ルニ從ヒ温暖トナリ年平均氣温一六度餘トナル。最高位最低氣温ハ測定ノ材料ナキモ附近ヨリ推ストキハ最上流部ノ最高氣温三〇度許最低氣温零點下一〇度餘下流部ニ於テハ夫々三十六七度乃至零點下五、六度ナルヘシ  
年雨量ハ流域全般ヲ通シ二、五〇〇耗乃至三、〇〇〇耗ノコト最多ク降雨日數ハ下流部ニ比シ上流部稍多キ傾アリ大體ニ於テ上下流ヲ通シ一、二〇日乃至一八〇日ナリ

### 二河川ノ狀況

(一)概説 耳川水系ハ日向山脈北部諸峰溪谷ノ水ヲ集メテ東流スルモノニシテ流域内ノ山岳高峻ナルヲ以テ支流等ノ狀況モ比較的簡單ナリ

本流ハ三方嶽ニ源ヲ發シ東流シテ日向灘ニ注ク。本流ノ北部ハ分水嶺遠ク南部ハ近シ從ツテ南部ヨリ流入スル支流ハ何レモ極メテ小ナル溪流ニ過キサレト北部ヨリハ

大支流來リ合ス十根川七ツ山川柳原川之ニシテ前者ハ上流部ニ合シ後二者ハ中流部ニ合流ス。尙十根川ノ上流ニ小崎川不土野川ノ二流アリ北東流シテ本流ニ合セリ

### (二)河況

耳川本流 耳川本流ハ河川ノ狀況ヨリ略三ノ區トナスヲ得其ノ一ハ上流ヨリ椎葉村字嶽八重附近迄ニシテ極メテ急峻ナル山岳相迫レル間ヲ流下ス。河床河岸岩盤ヨリ成ル所ト其ノ上ニ砂礫轉石岩塊ヲ置ク所ト交錯シ河況峻ナリ。此ノ部分ニ於テモ上流尾前附近ハ流量少ク下リテ不土野川小崎川ヲ合セテ稍大ヲナシ更ニ十根川ヲ合セテ益々大ヲナス河幅ハ所ニ依リテ異レトモ八間ヨリ二〇間ノ間ニ在リ河川勾配ハ十根川合流點ノ上ハ六〇分ノ一乃至八〇分ノ一下一〇〇分ノ一許ナリ

第二ノ區間ハ嶽八重ヨリ西郷村大字山三個字小八重附近迄ニシテ急峻ナル山岳相迫ルコト第一ノ區間ニ異ナラサレトモ河岸ニハ岩盤傾斜シテ露出シ河床ハ礫ヲ置ケリ而シテ河岸ニ近ク礫又ハ岩塊堆積セルコトアレト河中ニ大ナル岩石散在スルコト比較的少シ。河床ハ概シテ平ニシテ水深大ニシテ水流靜穩ナル所ト河底ノ勾配急ニシテ瀬ヲナス所ト交錯ス。此ノ區間ノ中部ニ於テモ七ツ山川

柳原川合流シ流量増大ス河幅ハ十四、五間ヨリ二〇間餘ノコト多ク河川ノ勾配ハ七ツ山川合流點ノ上ハ一四〇分ノ一以下ハ二六〇分ノ一ナリ

第三ノ區間ニ於テハ兩岸ニ山岳相連レト山容自ラ緩慢トナリ河岸ニ所々狭小ナル平地ヲ存ス。河岸河床共基盤ハ岩盤ニシテ此ノ區間ノ上半部ニ於テハ露出スルコト多クテト下流部ニ於テハ粒揃ヒタル礫ニ掩ハレ河畔ニ竹簇生セリ。河幅二〇間乃至七〇間西郷村田代附近ハ勾配四五〇分ノ一許ナレト以下ハ更ニ緩ナリ

不土野川及小崎川 兩川共熊本宮崎兩縣界附近ニ源ヲ發シ北東流シ本流上流部ニ合流ス河岸岩盤露出シ河床ニ轉石多ク河幅多ク五間ニ充タス勾配急ナレト流量少シ  
十根川 本流最上流部ノ東ニ於テ之ト平行シテ南流シ椎原ニ於テ三ノ小支流ヲ合セ下椎葉ニ於テ本流ニ合流ス兩岸急峻ナル山迫リ河岸ハ岩盤露出シ河床ニハ轉石多シ。

椎原以下ニ於テモ河幅一〇間ニ滿タス勾配凡五〇分ノ一ナリ

七ツ山川 諸塚山附近ニ源ヲ發シ南流シテ本流中流部ニ合流ス。河川狀況十根川ニ類シ勾配四〇分ノ一ナリ

柳原川 七ツ山川ノ東ニ於テ之ニ平行シテ南流シ七ツ山川合流點ノ少シク下ニ於テ本流ニ合ス。河況大體ニ於テ十根川ニ似タレトモ小屈曲多ク諸塚村古原附近ニ兩岸迫リ數箇ノ段流連續セル所アリ河川全體トシテノ勾配凡ソ五〇分ノ一ナレト流量ハ七ツ山川ニ比シテ少シ

(三)流量 月平均流量ノ最大ハ六、七、八月中ニ又最小ハ十一月、十二月中ニ起ル。流量ハ十二月一月頃最少ク二月ヨリ四月頃マテ次第ニ増加シ五月下旬ヨリ六月中旬頃減少シ梅雨期ニ入ルヤ頓ニ増大ス。而シテ九月以後ハ次第ニ減少ス。一年間ヲ通シテノ最小ハ冬季ニ起リ梅雨前ノ渇水ハ之ヨリ常ニ大ナリ

耳川水系流量表 (本省調査)

順位	舊順位	河川	測水所	面積	流					流域一方里當流量													
					年次	最大	平水	低水	渇水	最小	最大	平水	低水	渇水	最小								
					大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年
					大正九年	大正九年	大正九年	大正九年	大正九年	大正九年	大正九年	大正九年	大正九年	大正九年	大正九年	大正九年	大正九年	大正九年	大正九年	大正九年	大正九年	大正九年	大正九年
					平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均

三三三	三四四	三五五
七六七	耳川	耳川
耳川	耳川	耳川
宮崎縣西臼杵郡 椎葉村 松尾 岩屋戸	宮崎縣東臼杵郡 西郷村 田代 和田	宮崎縣西臼杵郡 諸塚村 家代 櫻谷
三四三六	四三九〇	五九五五
大正十年 大正十一年 平均	大正八年 大正九年 大正十年 大正十一年 平均	大正八年 大正九年 大正十年 大正十一年 平均
二二六〇〇	三三六〇〇	三三三〇〇
七三三	一〇〇〇	一七四
三三六	五〇〇	一〇三
二四六	三三六	五八
三三〇	三三〇	三三
五九	九〇九	二四九
二九〇	二二四	一七三
一五六	二三〇	九四
一〇二	七四	六六
八九	六九	八四
	六八	六六

備考 七ツ山川ニ於テハ大正八年中ニ測水所ニ移動アリシヲ以テ同年ノ流量ハ流域面積ノ比ニ依リ現測水所流量ニ換算シテ決定セリ

本流ニ於テハ上流部渇水量多ク下流部稍少シ。又七ツ山川柳原川ハ相竝ヘルニ拘ラス前者ハ流量多ク後者少キ傾アリ

洪水ハ六月乃至八月ニ起リ水位ノ上昇二〇尺餘ニ及フ

三水利及治水

(一)概説 本水系ニ於テハ局部的護岸等ノ外治水工事ト

稱スヘキナシ。本流及十根川、七ツ山川、柳原川ニハ大正八年六月廿四日河川法準用認可セラレタリ。現在河川ヲ利用スルモノノ内主タルモノハ舟筏ノ航行及流材ナリ其ノ他水車ヲ利用シ製材ヲナスモノニ、三アレット支流ノ水ヲ少許引用スルニ過キス。用水ナク漁業ハ多少行ハル。既設發電所ナケレト許可水力地點多シ

(二)舟航及流材 舟ノ航行スルハ主トシテ諸塚村荒谷以

下ニシテ西郷村古川及東郷村山陰ヨリハ日々一〇隻内外宛航下シ主トシテ木炭及板類ヲ搬出ス其ノ他諸塚村塚原迄溯航スルコトアレト稀ナリ

流材ハ本流上流椎葉村不土野附近ヨリ河口美々津港迄及十根川七ツ山川柳原川等ノ支流ニ於テ行ハル。角材竝丸木類ハ下流部ニ幾分後流行ハルル外凡テ管流ニ依リ十根川畔仲塔及七ツ山川畔仲ノ瀧ニ於ケル製材所ノ製材ハ一坪宛結束シ河畔ニ作レル木樋ヲ流下シテ前者ハ惠後崎ニ後者ハ榎谷ニ送り之ヨリ本流中ニ放流ス。一年間ノ流材ハ木材凡ソ一〇〇、〇〇〇石板類一二〇、〇〇〇束許ナリ是等ノ流材ニ便ニスルタメ時々河中ノ岩石等ノ整理ヲ行フコトアリ

(三)漁業 鮎鰻等ヲ主トシ年産額凡ソ一萬圓餘ナリ附近ノ住民漁獲シ消費ス

耳川水系許可地點一覽表

Table with columns for 種別 (Category), 地點數 (Number of sites), 馬力數 (Horsepower), 地點數 (Number of sites), 馬力數 (Horsepower), 地點數 (Number of sites), 馬力數 (Horsepower), 地點數 (Number of sites), 馬力數 (Horsepower), 地點數 (Number of sites), 馬力數 (Horsepower), 地點數 (Number of sites), 馬力數 (Horsepower).

四、水力地點 (一)概説 耳川水系ニ於テハ西郷村田代附近ヨリ以上ハ之ヲ水力ニ利用スヘシ。現在本流中流部ノ利用シ得ヘキ部分ハ總テ許可トナレトモ其ノ上流ニ尙利用スヘキ部分ヲ存ス。本河川ハ水量落差ノ關係良好ニシテ流材ト多少ノ舟行ノ外利害相反スル水利事業ナキヲ以テ單ニ此ノ點ヨリ見ル時ハ有利ナルニ似タレトモ本河川ノ流ルル所ハ九州ニ於ケル最僻遠ノ地ノ一ニシテ山岳重疊人煙稀薄道路開ケス車馬ハ僅ニ河口ヨリ七里西郷村田代ニ通スルニ過キササルヲ以テ今直ニ發電所ノ工ヲ起サント欲スルモ道路開鑿材料運搬ニ多額ノ費用ヲ要スルヲ以テ到底有利ナリト云フヘカラス然レトモ將來道路開ケ且他ノ水力悉ク使用サルルニ至ラハ即チ一寶庫タルヘキハ疑ヲ容レス 許可並選定地點左ノ如シ

耳川水系選定地點一覽表

Table with columns for 地點數 (Number of sites), 馬力數 (Horsepower), 地點數 (Number of sites), 馬力數 (Horsepower), 地點數 (Number of sites), 馬力數 (Horsepower), 地點數 (Number of sites), 馬力數 (Horsepower), 地點數 (Number of sites), 馬力數 (Horsepower), 地點數 (Number of sites), 馬力數 (Horsepower).

耳川水系選定水力地點表

順位ニ(一)ヲ附セルハ許可地點ト關係アリ又落差ニ\*ヲ附セルハ概定數ナリ

Table with columns for 順位 (Rank), 河川 (River), 番地點 (Site No.), 取入口 (Intake), 放水口 (Outlet), 水量 (Water Volume), 落差 (Head), 馬力數 (Horsepower), 巨水長路 (Large Water Long Road), 面流域 (Catchment Area), 能發電 (Power Generation), 馬力數 (Horsepower), 等級 (Grade).

順位	河川	番地	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	巨水長路	面流域	能發電	馬力平均	等級
(一、二五七)	耳川	四	宮崎縣西臼杵郡椎葉村松尾中八重	同郡椎葉村松尾松尾村	湧水 二三四 低水 四〇八 平水 七〇七	一一五	二、八五九 五、二〇八 九、〇二五	一七六〇	三三三	一〇〇・〇 九、六 一〇・一	二、八五九 四、八七五 七、三三九	甲
(一、二五八)	同	五	宮崎縣西臼杵郡椎葉村松尾	同郡椎葉村松尾	湧水 二三九 低水 四三六 平水 七五五	八〇	三、八七二 六、七〇四	一、三四〇	二四九三	一〇〇・〇 九、六 一〇・一	二、三三三 三、六三四 五、三三〇	甲
(一、二五九)	同	六	宮崎縣東臼杵郡西郷村山三個岩屋谷	同郡西郷村山三個中山村	湧水 二六八 低水 四八八 平水 八四五	一〇〇	二、九七五 五、四一七 九、三三〇	九二〇	二七六九	一〇〇・〇 九、六 一〇・一	二、九七五 五、〇〇〇 七、五三三	甲
(一、二六〇)	同	七	宮崎縣東臼杵郡西郷村山三個鳥野東	同郡西郷村山三個山須原	湧水 三三一 低水 五三六 平水 一〇〇一	五九	三、五一〇 六、五五六	一、四九〇	三九四三	一〇〇・〇 九、九 一〇・一	二、二六六 三、三三三 五、二二二	乙
(一、二六一)	同	八	宮崎縣東臼杵郡西郷村田代川戸口	同郡西郷村田代村	湧水 三六〇 低水 五八二 平水 一〇八七	四五	一、七九八 二、九〇七 五、四三〇	一、三五〇	四三六〇	一〇〇・〇 九、九 一〇・一	一、七九八 二、七九九 四、三三七	乙
(一、二六二)	七ツ山川	九	宮崎縣西臼杵郡諸塚村七ツ山寺	同郡諸塚村原村	湧水 五二 低水 九〇 平水 一五〇	三一六	一、八二四 三、一五七 五、二六一	一、六四〇	五四〇	一〇〇・〇 九、六 一〇・一	一、八二四 二、九七五 四、三三三	甲
(一、二六三)	柳原川	一〇	宮崎縣西臼杵郡椎葉村家代古原	同郡諸塚村家代塚原村	湧水 二二三 低水 四一 平水 八二	*四三〇	一、〇九八 一、九五七 三、九一四	二、五〇〇	三三六	一〇〇・〇 九、六 一〇・一	一、〇九八 一、八四〇 三、〇七二	甲

(二) 水力地點ノ説明

順位一、二五四 尾前ノ下流ナル小溪流合流點ヨリ取入レ不土野川ノ水ト合セ不土野川合流點ニ放水セントスルモノナリ水路ハ全部隧道トスヘシ。河川別水量左ノ如シ

種別	耳川	不土野川	合計
湧水量	五四	二五	七九
低水量	九九	四六	一四五
平水量	一七二	七九	二五一

順位一、二五五 不土野川合流點ヨリ取入レ持田ニ放水スルモノナリ水路ハ左岸ヲトリ隧道トスヘシ槽木ヨリ來レル溪流ハ之ヲ合スヘシ

順位一、二五六 本流小崎川合流點ヨリ取入レ一方十根川椎原ノ下流ヨリ取入レタル水ト合セ下椎葉ニ放水セントスルモノナリ水路ハ大部分隧道トスヘシ。河川別水量左ノ如シ

種別	耳川	十根川	合計
湧水量	一三二	四八	一八〇
低水量	二四〇	八八	三二八
平水量	四一六	一五三	五六九

順位一、二五七—一、二六二 調査期間内住友吉左衛門ニ許可トナリタリ

順位一、二六三 元調査局地點一四二四ノ取入口ヲ遙ニ上流ニ移セルモノナリ水路ハ大部分隧道トスヘシ

第十六章 小丸川水系

一、流域

(一) 地形 小丸川水系ノ流域ハ宮崎縣ノ中部ニ位シ東臼杵郡南部及兒湯郡ニ跨リ尙僅ニ西臼杵郡ヲカスメ西北ヨリ東南ニ延ヒ其ノ長サ一二里幅上流部ニ於テ四里下流部ニ於テ一里面積三二方里ナリ

本流域ノ大部分ハ日向山脈ノ走ル所ニ當リ急峻ナリ山岳連亘シ河口ニ近ク高臺延展ス

小丸川流域ニ於テハ山岳ハ凡テ河川ニ平行シテ其ノ嶺ヲ連ネ馬背ノ狀ヲ呈シテ延ヒ支脈ヲ出スモノナク又一峯離レテ獨立スルモノナキヲ以テ河流ニ直角ノ断面ハ▽字形ヲナシ地形比較的簡單ナリ

流域内ノ山脈ハ之ヲ五トナスヲ得ヘシ其ノ一ハ流域ノ北境ヲナスモノニシテ高峠ヨリ起リ西走シ清水山笹峠中山峠等ヲ經石仁田山ニ至リ耳川トノ流域界ヲナスモノ一